

栗東駅東口公共用地利活用の検討について

1. 取り組みの目的

栗東駅東口は、平成 3 年の栗東駅の開業後、土地区画整理事業による計画的な都市基盤整備を行うとともに、核となる商業施設等の誘致や栗東芸術文化会館さきらの整備など、着実な都市づくりを推進し、一定の都市基盤整備が完了したところです。

この間、駅周辺には高層マンションが建ち並び、平成 3 年時点で約 5,000 人(旧大宝学区)であった人口・世帯数も大きく増加し、平成 18 年には大宝東小学校の開校等を経て、現在では約 14,000 人(大宝学区・大宝東学区の合計)になっています。

一方、都市計画マスタープラン策定に当たって開催した地域別懇談会等を通じて、地域住民の皆さんからは、にぎわいが不足している、住民同士の交流が少ないなど、地域のにぎわいや活性化に関する意見をいただいているところです。

こういったことから、栗東駅開業当時とは大きく社会経済情勢が異なっていることなども踏まえ、駅前公共用地については、市の玄関口としての役割や地域住民相互の交流、あるいは文化・芸術、多様なまちづくり活動を通した幅広い市民の交流の場としての活用等、地域のにぎわいや活性化を実現するために必要かつ効果的な活用等について意見交換を行うことを目的として当検討会議を開催します。

2. 取り組みのスケジュール

今年度につきましては、今回の検討会議のみの開催となりますが、来年度以降についても、継続して利活用の検討・実践に取り組んでまいります（具体的な進め方については今後、さらに検討する予定です）。